

前回のあさらい → 人をかたんに殺すなっつーのは

殺すまでの 二まかい 感情がないとダメ。てことですヨ

一番大切なことは 推敲。

見るたびに直したくなるのが 普通。

その日によって 感情が ちがったり 思ふが ちがったりする

唐に 賈島^{かう}？ という詩人がいまして

「僧^{しやう}は 推^{おし}ス 月下^{げつが}ノ 門^{かど}」という詩を書いたか

↑ おすおすも 高^{たか}くの ほうが 良いのでは、と

というのが 由来。

小^こさすぎで、韓愈^{かんい} といふ 偉い 文人の

行列につっこんでしまった。

たった1文字で がらりと変わるのだ！

小説・文章というのは 糸田吾郎が 重要。

糸田吾郎から立ち上がっていくもの。

これから 小説を書いて 糸田集巻者に 読んでもらうようになったら

10回や 20回の 直しをするのは 当たり前。

そこで つまづいては いけないのは

具体的には...

・主語・同一語 などはなるべく 減らす。(語いがないように見える)

・文章を しっかり書く、きびしく書く。

・説明を 文章で書かない。

・ちゃんとした 日本語を使う (横文字をやたら使ったりしない)

◎ たくさん書いて 発表せねば。(人に 読んでもらう) 同トとが 良

① 小説は1本書いて終わりではない。

テーマをきちんと持っていれば

立止まってる作品も
捨てないで!

いろんな目線から、いろんな舞台で、同じ物語が書ける

② どういう狙いで書くか。(思想・意識・考え)

③ どういう設定で書くか。(人物・物語)

④ どういう題材で書くか。(ジャンルなど)

歴史? 恋愛? 和小説? ファンタジー? etc..

⑤ どういう角度から書くか。(否定的? 肯定的? など)

行きづまったら嫌いな人を思い浮かべればいい。

いろいろ目につくから 糸田孝太郎がよく思い出せる。

たとえばある人物を「だらしない」と書くのではなく

「鼻毛が出てる」描写で表現。鼻毛一本でだらしないさが出る!

文章に深みが出る。

文学の雑佳言表はコレしかない!

- 文春 (文学界) — 新人賞
- 講談社 (青年像) — " "
- 新潮社 (新潮) — " "
- 集英社 (あばる) — 文学賞
- 河出 (文芸) — 文芸賞

芥川賞をとりたいたならココを狙え

芥川賞

野間賞

三島賞

この辺をとらなければ
作家としての仕事は
なかなか...

その代わり

必ず本になる

同格

Q エンタメの賞はいっぱいある

・文春 「オール読物」 → 直木賞. これはとったらすごい。

・講談社 「小説現代」 → 吉川英治賞

・新潮社 「小説新潮」 → 山本周五郎賞

・集英社 「小説すば」 → 柴田錬三郎賞

他角川とかいろいろあるけど全部エンタメ。

とにかくいっぱいある！

テレビとかに出たりするようになるのもこちら。

質疑コーナー

Q. 文章が上達するためにはどんな本をよめばいいの？

A. 残っている作品のほうが「良い」。人間が「書かれています」
新しい作品よりも

Q. よく要項に「未発表作品に限る」とあるけど、それはダメ？

A. 別に応募するだけならいいよね？ お金もらってからはダメだ。